

附 錄

千九百三十年「ロンドン」海軍會議前記重要事項日誌……………二七一

千九百三十年「ロンドン」海軍會議前記

第一章 序 說

第一節 米國ニ於ケル海軍建造法ノ成立

第一項 「ジュネーヴ」三國會議失敗ノ影響

千九百二十七年六月二十日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開會セラレタル日英米三國海軍軍備制限會議ハ主トシテ八吋砲巡洋艦ニ關スル英米主張ノ懸隔甚シキ爲所期ノ成果ヲ收ムルコト能ハス八月四日休會ノ已ムナキニ至リタルカ休會ニ當リ三國全權ハ共同宣言ヲ發シ其ノ末段ニ於テ左ノ如ク聲明セリ

『右困難ニ顧ミ三國全權ハ一先ツ會議ヲ休會シ茲ニ各自ノ所見ヲ率直ニ聲明シ問題ヲ更ニ各本國政府ノ攻究ニ委ネ依テ以テ近ク解決ニ達センコトヲ期スルノ賢明ナルコトヲ信スルモノナリ

尙三國全權ハ「ワシントン」海軍條約第二十一條第二項ニ基キ招集セラレヘキ會議ハ締約國ノ協議ニ依リ右條項ノ豫定セル千九百三十一年八月ヨリモ早キ期日ニ於テ之ヲ開キ右會議ニ於テ決定セラレヘキ協定事項ハ同年十一月主力艦建造計畫ノ實行ト同時ニ其ノ效力ヲ生セシムルヲ適當ト認メ其ノ趣旨ヲ以テ各本國政府ニ進言センコトヲ約ス

以上各項ノ進言ヲ爲シ而シテ各國間ニ一致ヲ見タル諸點竝ニ一致ヲ見ルニ至ラサリシ事項ニ關スル前諸項ノ報告ヲ提出スルニ當リ三國全權ハ今回會議ノ遭遇シタル障礙ハ海軍軍備制限ニ一步ヲ進メントスルノ努力ヲ終止セシムルモノニアラスシテ寧ロ各國間ニ到達シ得タル合意ノ程度ニ顧ミ將又今回ノ會議ニ依リ各自ノ立場ヲ闡明シ得タルノ點ニ於テ各本國政府間合議ニ依リ見解ノ相違ヲ調和シ遠カラス補助艦制限ニ關スル協約ヲ完成シ經費節減ノ目的ヲ達スルト共ニ各國國防ノ安

全ヲ害スルコトナクシテ相互信頼及親善關係ヲ助長スルニ至ルヘキヲ確信スルモノナルコトヲ茲ニ記錄ニ留メント欲ス」右ノ宣言ニテ明カナル如ク「ジュネーヴ」會議ハ海軍問題ヲ再ヒ各本國政府ノ攻究ニ委ヌルコトトナリタルノミニテ軍縮ノ達成ニ對シ何等具體的進展ヲ齎ラスコト能ハサリシモ同會議ハ專門的事項ニ付テハ重要ナル決定ヲ爲シタルモノ鮮カラサルノミナラス各國ノ立場及主張ヲ究明シ殊ニ巡洋艦問題ニ關シ英米兩國間ニ存スル意見ノ相違ヲ明確ニスルコトヲ得以テ將來ノ交渉ニ資スル所大ナルモノアリタリ然レトモ同會議決遂ニ海軍問題打開ノ實ヲ舉クルコト能ハサリシコトハ英米兩國國民就中同會議ノ招請國ニシテ之ニ多大ノ期待ヲカケ居タル米國民ニ非常ナル失望ヲ與ヘサナキダニ強硬ナリシ同國大海軍論者ニ絶好ノ口實ヲ與フルニ至リタリ

第二項 海軍省原案ニ依ル海軍建造法ノ内容

米國ハ巡洋艦ニ關シテハ「ワシントン」會議以後「オマハ」級（七千五十噸）十隻ノ建造ヲ實行シツツアリシノミニシテ日英兩國ニ比シ劣勢ナル狀態ニアリタルヲ以テ同國大海軍論者ハ補助艦ニ於テモ「ワシントン」條約所定ノ比率ヲ維持スルヲ要スト爲シ頻リニ巡洋艦勢力ノ擴張ヲ主張シ千九百二十四年一萬噸八吋砲巡洋艦八隻ノ建造計畫ヲ樹テ同年ノ議會ニ於テ協賛ヲ得其ノ中五隻ノ建造ニ着手シ居タルカ更ニ千九百二十六年末開會ノ議會ニ於テハ右計畫ノ中未タ經費支出ヲ得居ラサリシ最後ノ三隻ノ速時建造着手ニ要スヘキ費用トシテ四十五萬弗ノ豫算ヲ通過シ大統領ノ裁可ヲ經タリ然ルニ前項所說ノ如ク「ジュネーヴ」會議ニ於ケル英米ノ論争及同會議ノ失敗ハ再ヒ下院議長「ロングウース」（共和黨）一派ノ大海軍論者ノ氣勢ヲ昂ムルニ至リ其ノ結果海軍當局ハ千九百二十七年十二月十四日左記内容ノ海軍擴張法案ヲ下院（第七十議會第一會期）ニ提出シタリ

艦種	建造隻數	一隻當リ建造費見積（弗）
巡洋艦	二五	一七、〇〇〇、〇〇〇
嚮導驅逐艦	九	五、〇〇〇、〇〇〇

潛水艦	航空母艦
三二	五
五、〇〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇、〇〇〇

本法案提出ノ際下院議長ニ宛テタル海軍長官「ウィルバー」ノ書翰中同長官ハ本案遂行ニ要スル經費ハ概算七億二千五百萬弗ニシテ大統領ニ於テハ本案ハ政府ノ財政方針ニ抵觸セストノ意見ヲ表示セル旨記載シタリ而シテ本法案ハ大統領ニ右建造ノ權限ヲ賦與スルニ止マリ實際ニ造艦ヲ開始スル爲ニハ更ニ豫算ノ協賛ヲ求ムル必要アルモノニシテ右計畫ハ海軍側ノ意嚮トシテ發表セラレタル所ニ依レハ五ヶ年計畫ニテ完成迄ニハ九年ヲ要スル豫定ナルモ法案中ニハ年限ヲ明記セス只將來海軍軍備制限會議開催ノ場合大統領ハ右計畫ノ一部又ハ全部ヲ中止シ得ルコトヲ規定シタルニ過キササルモノナリ

本法案ハ直ニ下院海軍委員會ニ附議セラレ同委員會ニ於テ審議セラルルコトトナリタルカ千九百二十八年一月十一日「ウィルバー」長官ハ同委員會ニ出頭シ本建造計畫ニ關シ大要左ノ如キ説明ヲ爲シタリ即チ『本計畫ノ立案ニ付テハ一方ニ於テ列國海軍ノ勢力ヲ考慮ニ加ヘタルモ主トシテ米國自身ノ國防上ノ必要ニ基キ計畫シタルモノニシテ既ニ「ワシントン」會議後間モナク米國ニ先チ日英兩國カ大型巡洋艦ノ建造ヲ開始シタル事實ハ各國各々自國國防ノ見地ヨリ造艦計畫ヲ決定スヘキコトヲ示スモノタルノミナラス客年「ジュネーヴ」會議ニ於テ米國カ巡洋艦總噸數二十五萬乃至三十萬噸ヲ主張シタルニ拘ラス英國側ニ於テ自國ノ利益保護ヲ理由トシテ他國ノ海軍計畫ニ關係ナク六十萬噸ヲ固執シタルコトハ米國ニ於テモ亦他國ニ關係ナク自國ノミノ見地ヨリ必要ナル巡洋艦ヲ建造スルノ要アルコトノ有力ナル證左ナリ「クローリッヂ」大統領ニ於テ何等造艦競争ノ意ナキコトハ議會ニ造艦競争ノ意ナキト同様ナリ本計畫ハ五、五、三ノ比率ヲ基礎トスルモノニアラサルモ實際ハ大體右ノ比率ト大差ナシ本案ニシテ遂行セラレ其ノ後之ヲ補フニ約二十年計畫ノ補充造艦計畫ヲ以テスルニ於テハ之ニ依リ戰爭ノ危險ヲ防止シ米國海上貿易ノ保護ヲ略々完フスルヲ得ヘク要スルニ米國ハ第一流ノ海軍力ヲ要スルモノナリ』

次テ翌一月十二日「ウィルバー」長官ハ再ヒ下院海軍委員會ニ出頭シ本案實行ノ年度別豫算計畫ハ大體

年 度	經 費(弗)
一九二九年	五五、二〇〇、〇〇〇
一九三〇年	一一〇、四〇〇、〇〇〇
一九三一年	一四一、一〇〇、〇〇〇
一九三二年	一四一、五〇〇、〇〇〇
一九三三年	一三九、〇〇〇、〇〇〇
一九三四年	九三、八〇〇、〇〇〇
一九三五年	四八、六〇〇、〇〇〇
一九三六年	一〇、四〇〇、〇〇〇

計約七億四千萬弗(註)ナルカ此外ニ海軍將官會議ニ於テハ總額約二十五億八千萬弗(年額約一億二千九百萬弗)ノ二十年補充造艦計畫ヲ有スル旨ヲ説明シタリ

本法案ニ依リ建造セラルヘキ艦船ノ細目ニ關シテハ同年一月二十七日海軍造艦部長「ビューレット」少將及海軍軍需局長「レイ」少將ハ下院海軍委員ノ質問ニ答ヘ今回擴張計畫ニ依ル巡洋艦二十五隻ハ大體ニ於テ目下建造中ナル八隻ノ一萬噸級巡洋艦ト同様ナルカ唯後者ニ比シ一層快速力ニシテ且八吋砲ヲ出來得ルタケ多數有スヘク速力備砲及防禦ノ均衡ニ關シテハ目下海軍側ニテ攻究中ナリ又備砲ハ從來巡洋艦ノ有スルモノヨリモ彈着距離ニ於テ優秀ナル新式ノモノニシテ建造費モ目下建造中ノ巡洋艦一隻カ平均約千六百五十萬弗ナルニ對シ今回ノモノハ一隻約千七百萬弗ナリ航空母艦ハ高角砲ノミヲ備ヘ其ノ防禦ハ其ノ搭載セル航空機ニ待ツヘク之等航空機ハ航空母艦カ敵ノ攻撃圈内ニ入ル一時間前ニ如何ナル敵ヲモ攻撃シ得ヘク又嚮導驅逐艦ハ噸數約二千噸速力三十五乃至三十六「ノット」ナルヘシ更ニ人員ニ關シテハ目下建造中ノ巡洋艦八隻及新計畫ニ依ル巡洋艦二十五隻ノ増加ニ伴ヒ兵員約二萬將校八百二十五名ノ増加ヲ要スヘキ旨ヲ述ヘ且右以上詳細ノ

事項ニ付テハ公開會議ニ於テ説明スルヲ得サル旨ノ陳述ヲ爲シタリ

(註) 本法案下院提出ノ際海軍長官ヨリ下院議長ニ宛テタル書翰中ニハ前述セル如ク概算七億二千五百萬弗ト

アリテ本數字ト千五百萬弗ノ開キアルモ其後ノ議會ニ於ケル討議ヨリ見レハ本數字ノ方正シキカ如シ

第三項 建造法案ニ對スル米國輿論ノ反響

本計畫發表セララルヤ豫テ海軍擴張ノ必要ヲ主張シ居リタル「ワシントン、ポスト」、「ニューヨーク、ヘラルド、トリビューン」、「フィラデルフィヤ、バズリク、レッヂャー」及「ハースト」系諸新聞紙ハ(一)補助艦ニ關スル「ワシントン」會議ノ精神既ニ沒却セラレ居ル今日米國トシテハ必要ナル軍艦ヲ建造スルヨリ外ニ策ナシ(二)今ヤ米國民ハ所謂「軍縮」ナル欺瞞ノ奸策ニハ飽タシタリ國民ノ欲スルモノハ國家ヲ保護スルニ足ルヘキ海軍ナリト論シテ本計畫ニ贊意ヲ表シタルモ他方「ニューヨーク、ウォールド」、「ボルチモア、サン」、「ニューヨーク、タイムズ」等ハ(一)本計畫ハ更ニ海軍競争ヲ惹起セシムルモノナリ(二)海軍問題ハ畢竟重要ナル政治問題ニテ之ヲ英米兩國ノ「アドミラル」連ニノミ委スヘキ性質ノモノニアラストテ強硬ナル反對ヲ表明シタリ

而シテ本計畫ハ更ニ海軍競争ヲ惹起セシムルモノナリトノ所論ニ對シテハ前項所述ノ如ク海軍長官ハ本計畫ハ専ラ國防上ノ見地ヨリ他國ニ關係ナク必要ナル海軍力ノ充實ヲ計ラントスルモノニ外ナラスト説明シタルモ而カモ本計畫ノ外ニ二十年ニ渉ル補充造艦計畫アルヲ發表スルヤ本計畫ハ要スルニ造艦競争ヲ誘致スルモノニ外ナラストシテ益々非難ヲ加ヘラルルニ至レリ加之下院海軍委員會ニ於ケル「ジョーンズ」少將(「ジュネーヴ」三國會議米國全權)ノ對英均勢論及同委員會ニ於テ海軍作戰部長「ヒューズ」大將カ「本計畫ハ相當程度ノ國防安全ニ備フルモノニシテ若シ適當ナル國防安全ヲ保障セントセハ尙本計畫ニ二割五分方ノ増加ヲ必要トスヘシ又英國ト同比率ヲ保タントスルコトハ本計畫作成上ノ裏面ニ於ケル考慮タリシト信ス」ル旨ヲ述フルヤ前掲賛成派新聞紙ヲ除キ米國內一般ノ新聞紙ハ概シテ本計畫カ餘リニ「ジンゴイスタック」ニシテ且政費節減ノ聲高キ現下ノ情況ノ下ニ於テ不穩當ナリト論シ就中平素ヨリ國際平和主義ヲ高唱スル「ニューヨ

「ク、ウォールド」紙及「ボルチモア、サン」紙等ノ如キハ連日其ノ社説ニ於テ斯カル危大ナル海軍計畫ノ不當ナルコトヲ攻撃シ一年前大統領カ議會ニ對スル教書中ニ於テ『世界海軍中一例外（英國海軍ヲ指ス）ヲ除キテハ米國海軍ニ接近スルモノナク又何レノ海軍ト雖モ米國海軍ヲ凌駕スルモノナキニ想到セハ米國ハ國防ヲ怠リツツアリト云フヲ得ス米國ハ未タ曾テ現時ニ於ケル程最モ適當ナル國防ヲ有シタルコトナシ』ト述ヘタル點ヲ指摘シ本計畫カ右大統領ノ聲明ト矛盾スルコトヲ力説シタリ

右ノ如ク一般輿論ノ趨向漸ク本計畫ニ非ナラントスルニ至ルヤ所謂大海軍論者及海軍軍人中ニハ此等反對論ニ對抗シテ國防上ノ必要ヨリ海軍擴張ノ急務ナルヲ高唱シ其ノ全力ヲ傾注シテ宣傳ニ努ムルモノ續出スルニ至リタリ其ノ中「ブルックリン」海軍工廠長「ブランケット」少將ハ一月二十一日「ニューヨーク」ニ於ケル「ナショナル、リパブリカン、クラブ」ニ於テ軍備ノ必要ヲ説キ現在ノ如キ情況ニ於テハ英米間ノ戰爭ハ避クヘカラサルモノナルカ如キ言辭ヲ弄シタルコトハ却テ反對論者ニ絶好ノ攻撃材料ヲ供給スルノ結果トナリ大統領及海軍當局ハ此等海軍軍人ノ言動ハ之ヲ眞面目ニトルノ要ナシト云ヒテ極力之ヲ不問ニ附スルニ努メタルニモ拘ラス反對論ハ卒然トシテ起リ霧々全米ヲ風靡セントスルノ勢ヲ示スニ至レリ

此等反對運動中最モ顯著ナルモノハ各種宗教團體及平和團體ノ運動ニシテ全國ニ涉リ一大勢力ヲ有スル「フエデラル、カウンシル、オブ、チャーチス」ノ如キハ各地ニ於テ其ノ聯絡團體ニ對シテ地方有力者各百名宛ヨリ大統領及各州選出議員ニ對シ海軍擴張反對ノ電報又ハ書面ヲ送ランコトヲ慫慂シ又「アメリカン、ユニテリアン、アソシエーション」ハ全國宣教師ニ對スル檄文中ニ於テ若シ本計畫議會ヲ通過スルニ於テハ英國並ニ英國ニ協同スル諸國ト米國トノ間ニ新海軍戰爭ヲ惹起シ千九百十四年以前ニ於ケル英獨間ノ海軍競爭ト同一ノ事態ヲ現出シ各國民ヲシテ益々苛重ナル負擔ニ苦シマシメ結局第二ノ世界戰爭ニ導クモノニ外ナラサルノミナラス更ニ重大ナルハ「ワシントン」會議ニ依リ折角日英同盟ヲ廢棄セシメタルモ本計畫成立セハ日英兩國ハ早晚米國ニ對シ公然若ハ暗黙ノ裡ニ同盟ヲ復活スルニ至ルヘキ虞アリト論シ又「ナショナル

ル、カウンシル、オブ、ザ、エビスコバル、チャーチス」ハ二月九日「ニューヨーク」ニ於テ本計畫ハ現時各國間ニ存在スル友好關係ヲ脅ヤカスモノニシテ斯カル大擴張ハ國防上ノ必要ニアラス又納稅者ニ不當ノ重荷ヲ課スルモノナルヲ以テ平和及節約ノ爲本計畫ノ修正ヲ希望スル旨ヲ決議シ更ニ「フィラデルフィア」ニ本部ヲ置キ同地方ニ大勢力ヲ有スル「クエーカーズ、オブ、アメリカ」ノ代表者ハ同日大統領ヲ訪問シタル上本計畫ニシテ若シ成立スルニ於テハ米國ト他國トノ關係殊ニ英國トノ關係ヲ危殆ナラシメ遂ニハ世界平和ヲ脅威スルニ依リ之カ放棄ヲ希望スル旨ノ大統領宛書翰ヲ發表スル等此等宗教團體並平和團體ノ活動ハ本計畫反對運動ヲ殆ント全國的運動ト化スルニ至レリ

斯クノ如クニシテ各方面ヨリ大統領及上下兩院議員ニ送達セラレタル抗議ハ日々多キハ二千通ニ達シタリト稱セラレ下院海軍委員長「バトラー」（共和黨）ノ如キハ其ノ三十二年ニ互ル議員生活中未タ曾テ斯ク迄廣ク各方面ヨリ抗議ニ接シタルヲ知ラストノ述懐ヲ洩シタリト傳ヘラレタリ

一方下院海軍委員會ニ於ケル聴取會ニ於テモ幾多ノ平和及宗教團體等ノ代表者出頭シテ反對意見ヲ陳述セルカ右ニ付委員會ニ於テハ大統領カ今回ノ巡洋艦二十五隻ノ建造ハ要スルニ現在大部分老朽艦トナリ居レル舊式巡洋艦二十二隻ヲ代換スルモノニ過キストノ意見ヲ有スル旨説明シタル處此等代表者中ノ一名ヲ除ク外ハ何レモ事態ヲ了得シ敢テ反對セザリシトノ趣報セラレタルモ他方ニ於テハ之ト反對ニ同委員會ニ於テ眞ニ本計畫ヲ支持シタルモノハ僅ニ愛國主義ヲ標榜スル「ドクターズ、オブ、アメリカン、レヴューション」ノ代表者ノミニ過キサリシトノ趣亦報セラレタリ

第四項 建造法案ニ對スル英國及佛國輿論

(イ) 英國

米國海軍建造法案ニ對スル英國ノ一般輿論ハ本案發表後間モナク「タイムズ」紙上ニ掲ケラレタル論評ニ依リテ之ヲ推知スルコトヲ得ヘシ即チ同紙ハ本案カ何ノ程度迄實行セラルルカハ米國政府ノ財政計畫ニモ依ルコトナカラ吾人ハ之ヲ眞劍ノ計畫トシテ重大視セサルヘカラス然レトモ米國海軍ノ目的如何ハ同國ノ繁榮ト安全ナル地位ニ顧ミ吾人ノ諒解ニ

苦シム所ナリ米國大統領ハ最近ノ敎書ニ於テ時勢遅レノ海軍競争ヲ非難シタルニモ拘ラス今ヤ競争のニシテ且挑發的目的ヲ有スル如キ計畫ヲ進メントシ居レリ吾人ハ本案ニ對スル英國ノ感情ヲ概言シ難シト雖モ素ヨリ米國ト確執シ又ハ之ト海軍競争ヲ爲スカ如キコトアルヘカラスト爲スモノナリ吾人ハ同國カ熟慮ノ上爲セル今回ノ決定ニ對シ又大統領ノ本案ヲ採擇セル個人的動機ニ付テハ批評ヲ避クヘシ只明白ニシ置キタキハ本家中軍縮會議開催ノ場合大統領ハ本計畫ヲ中止セシメ得トノ一節アルニ基キ本案ハ軍縮會議再開促進ノ敵本主義ニ出ツトノ見解アルコト是ナリ此ノ如キ見解ハ當ヲ得サルノ甚タシキモノニシテ英國ハ斯カル手段ニテ動カサルルモノニアラス斯カル見解ノ生スルハ「ジュネーヴ」ニ於ケル吾人ノ公明ナル態度ヲ米國カ誤解シ居ルニ出ツルモノナリ孰レニセヨ本案ニ依リ吾人カ軍縮會議再開又ハ海軍競争ニ引込マルル如キコトナカルヘシト論シタリ

(ロ) 佛 國

本案ニ對スル佛國一般ノ輿論ハ本案ハ軍縮ノ精神ヲ沒却シ今後ノ軍縮運動ヲ阻害スルト共ニ海軍競争ヲ再開セシムルモノト爲シ本計畫ハ千九百十六年以降ノ計畫中最大ノモノニシテ斯カル尤大ナル計畫ハ米國議會ノ協賛ヲ得ルヤ否ヤ疑ハシク假令協賛ヲ得ルトモ直チニ建造ニ着手スルコトハ至難ナルヘシト觀測シ又「ジュネーヴ」會議ノ招請國ニシテ現ニ不戰條約ヲ提起セントシツツアル米國カ一方ニ於テ斯カル大擴張ヲ爲サントスルハ滑稽ナル矛盾ナリト爲シタリ

第五項 下院修正案ノ可決及上院ニ於ケル審議未了

上述ノ如ク本計畫ニ對スル内外ノ反對甚シキノミナラス米國議會内ニ於テモ本案ヲ以テ餘リニ尤大ナリトシ之ニ斧鉞ヲ加ヘントスル形勢漸ク旺ナラントスルニ至リタルニ加フルニ當時議會ノ懸案トナリ居タル「ミシシッピー」地方水害救済、租稅輕減及農村救済等ノ主要問題ニ關聯シ多大ノ經費ヲ要スヘキ實情ニアリタルヲ以テ大統領及下院海軍委員會有力者ハ本計畫ニ對シテハ之ニ削減ヲ加フルノ到底己ムヲ得サルヲ認ムルニ至リタルモノノ如ク其ノ結果二月二十三日下院海軍委員會ハ殆ント全會一致ヲ以テ當初ノ海軍省原案中僅カニ一萬噸級巡洋艦十五隻及航空母艦一隻ノミノ建造ヲ承認シ嚮導驅逐艦及潛水艦ハ全部削除スルコトニ決定シ從テ建造費見積ノ如キモ原案ノ七億四千萬弗ハ二億七千四百萬弗ニ削減セラレ

別ニ將來米國ノ參加スル國際會議ニ於テ協定成立スル場合ニハ大統領ニ右計畫ノ一部又ハ全部ヲ中止スル權限ヲ認メタリ尙同委員會ハ一旦巡洋艦ハ三年內、航空母艦ハ二年內ニ建造ニ着手シ六年內ニ完成セラルヘキ旨ヲ定メタルモ其ノ後大統領當初ノ意向ニ應ジ右造艦完成期ヲ六年內ト定メタル點ヲ削除セリ本建造法案ハ上記ノ如キ修正ヲ加ヘラレタル上二月二十八日同委員會ヨリ下院ニ報告セララルニ至レリ

右修正案ニ對シ「ニューヨーク、タイムズ」ハ右ハ經費節約ノ趣旨ニ合シ造艦競争ノ弊ヲ絶ツヘシトノ贊成論ヲ爲シ一般ニハ妥當ナル修正トシテ迎ヘラレタルモ反對論者中ニハ依然之ヲ以テ満足セス右ハ尙過大ナリトスルモノアリ例ヘハ「フレデリック、ヂュー、リビー」ノ率ユル戰爭防止協會ノ如キハ此ノ不幸ナル計畫ノ全廢ヲ期ストテ引續キ強硬ナル反對運動ヲ行ヒ各種宗教團體代表者モ亦右修正案ニ飽足ラスト爲シ二月二十七日大統領ヲ訪問シ右案ニシテ議會通過ノ場合ニハ之ヲ拒否センコトヲ求メタル處大統領ハ右委員會案實現スルモ米國ノ巡洋艦勢力ハ三十萬噸以下ナルヲ以テ「ジュネーヴ」會議ニ於テ米國ノ提議セル最大限ヲ超過スルモノニアラス本案ハ世界ヲ驚愕セシメ若ハ造艦競争ヲ惹起セシムルモノニアラスシテ千九百三十一年ノ會議ニ於テ満足ナル海軍制限協定ヲ得ルヲ助クル一步トシテ承認セラルヘシト思考スル旨述ヘタリト報セラレタリ

斯クシテ本修正案ハ三月十七日下院ニ於テ本家中將來軍縮ニ關スル國際協定成立ノ場合大統領ニ本計畫ノ一部又ハ全部ヲ中止スルノ權限ヲ認ムル條項ニ更ニ大統領ニ對シ右協定ヲ「エンカレーヂ」スル様要求スル字句ヲ挿入シタル上可決セラレ上院ニ回附セラレタリ

上院ニ於テハ直チニ之ヲ同院海軍委員會ニ附議シタル結果上記下院案ニ對シ本案ニ依ル巡洋艦ノ約半數ヲ海軍工廠ニテ建造ヘキ旨ノ修正ヲ加ヘタル上五月三日同委員會ヲ通過シタルカ同月二十九日上院ニ於テ閉會ニ關スル動議提出セラレタル結果同日議會ハ閉會セルヲ以テ海軍建造法案モ遂ニ上院ニ上程セラルルニ至ラスシテ止ミ次會期ニ持越サルルコトナ

第六項 海軍建造法通過後ニ關スル大統領演説

上述ノ如ク海軍建造法案ハ第七十議會第一會期ニ於テ上院ニ回附セラレタル儘審議未了トナリタル處其ノ後別項記述ノ如ク海軍制限方式ニ關スル英佛協定問題ニ關聯シ米國輿論ハ再ヒ海軍問題ニ興味ヲ感スルニ至リ此機會ニ乘シテ大海軍論者ノ猛烈ナル運動アリタル結果行政部ニ於テモ大統領及海軍長官(註)共ニ第二會期ニ於ケル本案ノ通過ヲ熱心ニ希望シ殊ニ大統領ハ千九百二十八年十一月十一日休戰紀念日米國在郷軍人會大會席上ノ演説ニ於テ先ツ大戰ニ於ケル米國ノ貢獻及犧牲ヲ述ヘタル後軍縮、不戰條約、戰債等ニ對スル米國ノ立場及政策ヲ詳述シ平和確保ノ爲米國ハ「準備」、「制限」、「拋棄」ノ實際的政策ヲ取り居レリト爲シ更ニ歐洲諸國カ米國ヲ一層諒解セムコトヲ求メ相互ノ親善ヲ維持シ得ハ戰債ノ解決並軍縮ヲ遂行シ歐洲ノ進歩ヲ援助スルコト確實ナルヘシト述ヘ特ニ軍縮問題ニ付テハ國防ニ適當ナル用意ヲ爲シ置クコトハ敵對行爲又ハ國家權利ノ侵害ノ機ヲ少クスルモノニテ右ハ米國ノ主要ナル態度ナル處米國海軍ニ付テハ尙多數ノ軍艦ヲ要スト爲シテ海軍建造法ノ通過ヲ希望シ更ニ「ワシントン」會議以後ノ軍縮ノ經過ヲ略述シ「ジュネーヴ」會議當時及英佛海軍協定ニ現ハレタル英國ノ主張ハ軍縮ノ目的ニ叶ハサルモノニテ米國ノ容ルル能ハサル所ナリト述ヘタリ

右演説ニ對シ十二日及十三日ノ米國各新聞ハ殆ント舉ツテ贊意ヲ表シ特ニ其ノ海軍問題ニ關スル部分ニ注意ヲ拂ヒ主トシテ之ニ付論評ヲ加ヘタルカ大體右大統領ノ直截ナル言明ハ米國輿論ノ大部分ノ支持ヲ受ケ一面英國政府ニ教フル所多カルヘシトシ米國ハ國防ノ用意アルヲ要スルカ歐洲諸國中米國ノ「バリタイ」要求ニ反對ナル政策ヲ考慮スルモノアル間ハ米國ハ尙多數ノ軍艦ヲ建造スルノ要アリ從テ前會期ヲ通過セザリシ擴張案ハ來會期ニ於テハ國防上必要ト認メラルヘシトノ趣旨ヲ掲ケ「シカゴ、トリビュン」ノ如キハ大統領ノ演説ハ國內のニモ國際的ニモ最モ重大視スルモノニテ過般締結セラレタル不戰條約ヲ以テ我國防ヲ忽ニスル理由トナラス殊ニ「ワシントン」會議以後列國ハ同條約上無制限ニ建造シ得ル種類ノ艦艇ヲ多數建造シ米國ノ此等諸國ニ對スル相對的勢力ヲ減殺シ且「ジュネーヴ」會議以後英佛間ニ兩國ニ取リテ好都合

ナル小型巡洋艦ニ關シ協定成立シ日本之ヲ支持スル以上米國トシテハ來會期ニ海軍擴張案ヲ提出セサルヲ得スト論セリ尙右ノ外一二重要新聞中大統領ノ演説ニ批評ヲ加ヘタルモノアリ即「ニューヨーク、タイムズ」ハ大統領ノ演説中或ル場合ニハ徹底の平和論者ノ如ク他ノ場合ニ於テハ戰爭ハ軍事の用意ニ依リ之ヲ防止シ得ヘシトシ其ノ思想ニハ不明確且不徹底ナルモノアリト評シ「ボルチモア、サン」ハ大統領カ一方ニ於テ理性及良心ニ訴フルコトヲ説キ乍ラ他方ニ於テ戰爭ニ對スル準備ヲ主張スルハ徹底ヲ缺クト述ヘタリ

一方本演説ニ對スル英國諸新聞紙ノ論評ヲ見ルニ概ネ大統領カ軍縮問題ニ付歐洲側ニ誠意無シト爲セル點ヲ非難スルト共ニ英國ノ海軍軍縮案ニ對スル批評ヲ駁シテ英國ハ費用及戰鬪力ノ點ニ於テ大ナル減縮ヲ提議セルモノナルコト、英國ハ米國ト製艦競争ヲ爲ス意無キコト、自給自足ノ國ニシテ外部ヨリ攻撃セラルル惧無キ米國カ防護ヲ名トシテ大海軍計畫ヲ爲スハ不可解ナルコト等ヲ縷述シ十二日「テレグラフ」ハ大統領ハ軍縮案ニ關聯シ米ノ四十隻ニ對シテハ六十八隻ノ巡洋艦ヲ有スヘシトノ言ヲ爲スモ四十隻ハ大洋ニハ向カサル北海用ノ小艦ナリ米國コソ大型巡洋艦建造ニ依リテ決定のニ英國ニ優先スヘシト附言シ「ボースト」ハ大統領ハ直ニ巡洋艦ト爲シ得ヘキ多數ノ商船ヲ有スル英國ニ巡洋艦ノ要ル筈無シト言フモ一方ニ於テ商船ノ多數ナルコトカ巡洋艦ヲ必要トスル理由トモナル商船力武裝ヲスレハトテ到底防禦ニ適セサルコトハ明白ナリト述ヘ十三日「タイムズ」ハ大統領ノ演説ハ疑モ無ク外國ヲ目的トセルモノナリ米國ノ外交政策ハ其ノ隣邦ニ恩惠ヲ與ヘ又ハ與ヘントスルモノニアラスシテ嚴格ニ國家的ナル利益ヲ追求スルモノナリ米國ハ軍艦ヲ建造シ軍縮ヲ通シテ國家間ニ重キヲ爲スコトヲ世界的ニ知ラシメ之ニ基キ海外ニ於ケル企業ノ利益ヲ收メントスルモノナルコト明カトナレリト論シ且大統領カ米國ノ平和ヲ保障スル理由トシテ掲クル所ハ其ノ儘英國ニモ當嵌リ英國ハ米國トノ完全ナル了解ヲ目標トス英國ノ側ニハ之ヲ阻ムヘキ何等ノ障礙無シトノ趣旨ヲ附加シタリ又「ガーディアン」ハ米國ハ一年前ニ比シ遙ニ歐洲ヨリ遠サカルニ至レリ英佛海軍協定ハ實ニ其ノ一因ナリ米國ハ國防ノ爲ノ必要ヲ以テ其ノ軍艦建造ヲ辯護シ居ルモ畢竟製艦競争ヲ爲スモノナルコトハ覆フヘカラスト論評セリ

越テ十二月四日大統領ハ第七十議會第二會期開會直後議會ニ送リタル恒例ノ教書中更ニ本問題ニ言及シ一般ノ標準ヨリ觀テ米國海軍ハ巡洋艦ニ於テ劣勢ナリトテ海軍擴張案ノ通過ヲ要求シ右ハ國防ノ用ニ充ツル爲ニテ他國ト競争スル意思ナシ米國ハ軍國主義的又ハ帝國主義的ニ非ス此種非難ヲ加フルモノハ同時ニ外國ニ對スル米國ノ援助ヲ要求スルモノナルカ右援助ハ必然外國ニ於テ米國カ利害關係ヲ有スル結果トナリ而シテ米國ニ取リ右利害關係ノ最モ大ナル外國ハ佛、英、伊ナル處此等ノ何レト雖モ米國カ此等諸國ニ對シ軍國主義的企圖ヲ抱クモノトハ考ヘサルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタリ

(註) 海軍政策ニ關スル「ウィルバー」海軍長官聲明書發表

十一月十二日海軍長官ハ米國海軍政策ニ關スル長文ノ聲明書ヲ發表シ其ノ中ニ於テ米國ハ補助艦ニ付「ワシントン」條約規定ノ比率ニ一致スル噸數迄建造及維持スルコト特ニ巡洋艦ニ關シテハ舊式巡洋艦ハ一切一萬噸八吋ノ大型艦ヲ以テ代換シ且今後ハ右大型艦ノミヲ建造スヘク小型艦ヲ建造セサルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタリ

第七項 海軍建造法ノ成立

斯クテ海軍建造法案ハ第七十議會第二會期ニ持越サレタル處同會期ハ短期ナル上重要法案輻輳シ居ル爲議事進行ノ模様如何ニ依リテハ本建造法案モ再ヒ審議未了ノ運命ニ遭遇スルニアラスヤト一部ニハ觀測セラレ居タルカ一方ニハ前項所述ノ如ク大統領及海軍長官ノ熱心ナル慫慂アリ他方ニハ一般輿論ノ好轉アリタル爲議會開會後間モナク上院ハ本法案ノ審議ヲ行フニ至レリ然レトモ本法案中建造期間條項ノ削除方ニ關スル大統領ノ勸告、「キング」等一部議員ノ隻數削減論、「ボラー」等ノ海上ニ於ケル交戰及中立法規制定會議開催ニ關スル希望條項追加論及不戰條約論者並平和論者ノ反對等アリテ審議屢々紛糾ヲ見ントシタルカ大統領及海軍長官並ニ上院海軍委員長「ヘール」等ノ熱心ナル斡旋ノ結果他ノ重要法案ニ優先シテ審議セララルコトナリ千九百二十九年(昭和四年)一月二十九日上院ニ於テ本案ニ關スル演說時間制限ノ決議成立シ次テ二月四日「ハリスン」提出ノ建造期間條項削除ノ動議否決セラレ更ニ翌五日前述「ボラー」修正案ニ對スル「リ

ード」修正案ヲ附シタル外前期議會上院海軍委員會ニ於テ可決シタル原案ノ儘ニテ六十八對十二ノ多數ヲ以テ通過決定セラレタリ而シテ本案ニハ中立及交戰者ノ行動ニ關スル追加條項附加セラレタル爲再ヒ下院ニ回附セラレ同七日無修正ニテ同院ヲ通過シタルヲ以テ二月十三日大統領ハ之ヲ裁可公布スルニ至レリ

本建造法全文左ノ如シ

AN ACT.

To authorize the construction of certain naval vessels, and for other purposes.

Be it enacted by the Senate and House of Representatives of the United States of America in Congress assembled, That the President of the United States is hereby authorized to undertake prior to July 1, 1931, the construction of fifteen light cruisers and one aircraft carrier according to the following program:

(a) Five light cruisers during each of the fiscal years ending June 30, 1929, 1930, and 1931, to cost, including armor and armament, not to exceed \$17,000,000 each.

(b) One aircraft carrier prior to June 30, 1930, to cost, including armor and armament, not to exceed \$19,000,000: Provided, That if the construction of any vessel herein authorized to be undertaken in the fiscal year ending June 30, 1929 or 1930, is not undertaken in that fiscal year, such construction may be undertaken in the next succeeding fiscal year: And provided further, That the first and each succeeding alternate cruiser upon which work is undertaken, together with the main engines, armor and armament for such eight cruisers, the construction and manufacture of which is authorized by this Act, shall be constructed or manufactured in the Government navy yards, naval gun factories, naval ordnance plants or arsenals of the United States, except such material or parts as are not customarily manufactured in such Government plants.

Section 2. The Secretary of the Navy is directed to submit annually to the Bureau of the Budget estimates for the construction of the foregoing vessels.

Section 3. The construction of the light cruisers and of the aircraft carrier herein authorized shall be subject to the limitations prescribed by the treaty limiting naval armament, ratified Aug. 17, 1923, so long as such treaty shall remain effective.

Section 4. In the event of an international agreement, which the President is requested to encourage, for the further limitation of naval armament, to which the United States is signatory, the President is hereby authorized and empowered to suspend in whole or in part any of the naval construction authorized under this Act.

Section 5. First-That the Congress favors a treaty, or treaties, with all the principal maritime nations regulating the conduct of belligerents and neutrals in war at sea, including the inviolability of private property thereon.

Second-That such treaties be negotiated if practically possible prior to the meeting of the conference on the limitation of armaments in 1931.

Section 6. The Secretary of the Navy is hereby directed to present to the Congress on or before Dec. 10, 1929, preliminary plans, specifications, and estimates of cost for the constructions of two salvage vessels for use in ships disasters.

右要譯左ノ如シ

一、大統領ハ本建造法ニ依リ千九百三十一年七月一日前ニ輕巡洋艦十五隻航空母艦一隻ヲ左ノ豫定ニ依リ建造スルノ權能ヲ有ス

(イ) 千九百二十九年、千九百三十年及千九百三十一年六月三十日ニ終ル會計年度ニ於テ各一隻ニ付一千七百萬弗ヲ超エサル費用ヲ以テ各年度五隻宛ノ輕巡洋艦ヲ建造スヘシ

(ロ) 千九百三十年六月三十日前千九百萬弗ヲ超ヘサル費用ヲ以テ航空母艦一隻ヲ建造スヘシ

二、海軍長官ハ毎年豫算局ニ右艦船ノ建造費見積ヲ提出スヘシ

三、本法ニ依リ輕巡洋艦及航空母艦ハ「ワシントン」海軍軍備制限條約ノ制限ニ從フモノトス

四、將來海軍軍備制限ニ關スル國際協定成立ノ場合大統領ハ本建造ノ全部又ハ一部ヲ中止スルノ權能ヲ有ス

五、議會ハ戰時海上ニ於ケル個人ノ財産不可侵ヲ含ム中立及交戰者ノ行動ヲ規律スル主要國間ノ條約締結ニ贊意ヲ表ス右條約ハ出來得レハ千九百三十一年ノ軍備制限會議前ニ之ヲ商議スヘキモノトス

第八項 海軍建造法ノ成立ニ對スル各國新聞論調

(イ) 米 國

二月七日「ニューヨーク、トリビューン」ハ上院ノ海軍建造法通過ハ全ク米國國防上並ニ貿易植民地ノ保護ノ必要ヨリ出テタルモノニシテ特ニ英國ニ對シ備フルノ意味ニ非スト述ヘ六日「デイリー、ニューズ」ハ右通過ヲ祝スト共ニ從來米國海軍擴張論者ノ一論據タリシ海洋ノ自由其ノ他一般海洋問題研究ノ急務ナルヲ説キ右問題ノ科學的研究ヲ俟テテ始メテ世界平和來ルヘシト論シ又同日ノ「デイリー、チャール」ハ議會カ一方不戰條約ヲ通過シテ他國ニ友情ヲ示スト同時ニ國防ノ必要ニ應シ今又海軍擴張案通過ヲ忘レサリシヲ慶賀スト論シタリ

(ロ) 英 國

二月六日「タイムズ」及七日「テレグラフ」ハ論說ヲ掲ケ何レモ英國ハ米國ト建造競争ヲ爲スモノニ非ス但シ適當ノ方法發見次第速ニ軍備縮少問題ニ向テ歩ヲ進ムルノ要アリト述ヘタル後米國上院ノ言及セル中立ニ關スル條約ハ聯盟規約乃至不戰條約成立後國際戰時關係ノ原則變化セサルヲ得サル今日ニアリテハ考究ノ要アルモノニシテ同時ニ右ハ英國海軍ノ任務ヲ簡易ニシ且海軍軍備縮少ヲ容易ナラシムルモノナルヘシト論シタリ

(ハ) 佛 國

佛國主要新聞紙ハ概ネ米國海軍建造法ノ上院通過ヲ以テ英米海軍競争ノ導火ヲ切リタルモノト爲シ軍備縮少ノ將來ニ悲觀的觀測ヲ下スト同時ニ英國外相カ一月二十六日ノ演說ニ於テ英米海軍均勢ノ原則ヲ承認セル事等ヲ指摘シ英國側ノ妥協的態度ニ同情ヲ表シタリ其ノ中主要ナルモノヲ摘記スレハ「タン」ハ英米兩國ノ海軍力ヲ全然同種同數ナラシムルコトハ兩國ノ地理的立場著シク相違セルニ鑑ミ眞ノ平等ト云フヲ得ス又今次米國海軍計畫ハ同國國防ノ必要以上ニ出テタルモノニシテ米國人カ其ノ世界第一主義ヲ保持スル限り各國ノ受諾シ得ル軍備縮少案ノ作成ハ極メテ困難ナリト論シ「エコー、ド、パリ」ハ米國ハ先ヅ其ノ海軍力ヲ充實シタル後千九百三十一年ノ軍備縮少會議ニ臨マントスルモノナルヘキ處他方英國カ何時迄今日ノ如キ妥協的態度ヲ持續スヘキヤ疑問ナリト述ヘ「フィガロ」、「ゴローア」ハ米國人ノ所謂

軍備縮少トハ外國ノ軍備ヲ削減スルニ非シンハ自國ノミ軍備ヲ擴張セントスルニ外ナラス從テ今次ノ增艦計畫ハ「ジュネーヴ」三國會議及英佛海軍協定ノ失敗ヨリ來ル當然ノ結果ナリト論シ尙海洋自由ノ問題ニ關シテ米國カ歐洲大戰以前ハ熱心ニ海洋ノ自由ヲ主張シタリシニモ拘ラス參戰以後ハ全然之ト反對ノ態度ニ出テタル事例ヲ指摘シ本件ニ關スル新國際法規制定ノ成否ヲ疑問視シタリ

第二節 海軍制限方式ニ關スル英佛協定問題

第一項 英佛協定成立經過概要及協定内容

國際聯盟軍備縮少會議準備委員會ハ大正十五年以來陸海空三軍軍備ニ互ル軍備制限問題ヲ審議中ナリシカ海軍問題ニ關シ議岐レ一國海軍軍備ノ總噸數ヲ制限スルト同時ニ右總噸數内ニ於テ特定ノ艦種ニ付キ各艦種毎ニ噸數ヲ制限セムトスル所謂艦種別主義ト單ニ一國海軍軍備ノ總噸數ヲ制限スルニ止メ其ノ範圍内ニ於テハ噸數ノ使用ヲ全然當該國ノ自由ニ委スヘシトスル所謂總噸數主義ノ對立ヲ見タリ前者ハ日英米、後者ハ佛伊等ニ依リ支持セラレ双方共自說ヲ固持シテ下ラサリシカ爲準備委員會ノ議事遲々トシテ進捗セザルモノアリタリ

千九百二十七年三月開催ノ第三回準備委員會ニ於テハ局面打開ノ爲佛國側ヨリ所謂「ボール、ボンクール」妥協案(註)ノ提示アリタルモ當時「ジュネーヴ」三國會議直前ノコトニテモアリ英米兩國側ニ於テ即決ヲ肯セザリシカ爲本問題未決了ノ裡ニ委員會ハ休會スルコトナリタリ

其後同年九月開催ノ第八回聯盟總會ニ於テハ本問題ノ機微ナル性質上其ノ儘準備委員會ヲ開催スルモ會議決裂ノ虞アルカ故ニ關係國間ノ直接交渉ニ依リ之カ解決ヲ圖ルコトナリ其ノ結果英佛當局ヨリ夫々我方出先官憲ニ對シ我方意見ヲ求メ來レルコトアリシモ我方ハ本件ニ關シ終始公正ナル態度ヲ持スルノ見地ヨリ敢テ深入スルコトナク此ノ問題ニ處シ來リタリ越テ千九百二十八年(昭和三年)七月三十日英國外務大臣ハ議會ニ於テ軍備縮少問題ニ關シ英佛兩國政府間ニ私的の交

渉進行中ナリシ處最近具體的結果ヲ得タルニ因リ之ヲ關係國政府ノ考慮ニ付セントスルモノナリト披露シタリシカ翌三十一日佛國外務省聯盟事務局長ハ補助艦制限方法ニ關スル左記英佛提案ヲ國際聯盟帝國事務局長ニ提示シ次テ在本邦英國代理大使モ我方ニ對シ八月二日附ヲ以テ同趣旨ノ申入ヲ爲シ帝國政府ノ見解ヲ求メタリ

一、軍備縮少會議ノ決定スヘキ制限ハ四種ノ軍艦ニ關スルモノトス

(1) 主力艦即チ排水量一萬噸ヲ超ユル又ハ口徑八吋ヲ超ユル備砲ヲ有スル艦船

(2) 一萬噸ヲ超ユル航空母艦

(3) 一萬噸以下ノ水上艦船ニシテ口徑六吋ヲ超ヘ八吋ニ至ル備砲ヲ有スルモノ

(4) 大洋用潛水艦即六百噸ヲ超ユル潛水艦

二、「ワシントン」會議ハ(1)及(2)艦種艦船ノ制限ヲ規定セルヲ以テ軍備縮少會議ハ單ニ右制限ヲ同條約非署名國ニ擴張スル方法ヲ審議スヘシ

三、英國政府及佛國政府ハ左ノ如ク提案ス

(一) (3)及(4)艦種ニ關シ軍備縮少最終會議ハ一切ノ國ニ適用セラレ何レノ國モ右艦種毎ニ艦船ノ全部ニ付條約期間中超過スルコトヲ許容セラレサル最大限噸數ヲ定ムヘシ

(二) 右艦種制限ニ關スル最終會議ニ於テ各國ハ前項ノ制限内ニ於テ其ノ到達セントシ且條約期間中超過セサルコトヲ約スル噸數ヲ表示スヘシ

(註) 所謂「ボール、ボンクール」妥協案トハ之ヲ約言スレハ艦種ハ(1)主力艦 (2)航空母艦 (3)一萬噸以下ノ

水上補助艦 (4)潛水艦ノ四艦種ニ別チ各國ハ條約ニ依リテ許容セラレタル範圍内ニ於テハ聯盟事務局ニ對スル一ヶ年ノ豫告ヲ以テ艦種間ニ噸數ノ融通ヲ認ムヘシト云フニアリ

第二項 英佛提案ニ對スル日米伊ノ態度